

函館生涯学習インストラクターの会

情報誌 平成24年度(第10号) 2月19日発行

会長 島貫 徹彦

編集責任者 浜田 愷

☆ネット情報 {報告・情報・連絡}

- | | |
|---------|--|
| ☆ 1月15日 | 24年度 ともえシニアカレッジ 第3回講座
『函館の古い地図を探る』 講師 奥村 茂樹 氏 |
| ☆ 1月17日 | 新年懇親会 於：呑食 カムス |
| ☆ 2月19日 | 24年度 ともえシニアカレッジ 第4回講座
漢詩を学ぶ 百印百詩「松浦武四郎と頼三樹三郎」
函館漢詩文化会 主宰 山形 周文 |
| ☆ 2月21日 | 月例研修会 神宮 文子氏 |
| ☆ 3月1日 | 放課後子供教室 於：南本通小学校 |
| ☆ 3月19日 | 24年度 ともえシニアカレッジ 第5回講座 |

☆広場の声【自らの感じ、気づいたこと(随筆・旅行記・文芸)】



最近心に残った言葉2つ

～その9

七尾 佳 佑 さん

* 樋口 久子 (プロゴルファー) のことば

“日頃の単純な練習の積み重ねを無心で続けてきた。また、恵まれた指導者にも出会ったことが、今日の自分があると思う”と語っていた。【2012. 11. 12. “ラジオ時代を創った女たち “の中で”

【 当人は優勝72回 (日本で69回、米国で3回) の実績があり、引退後は女子プロ協会の会長職に14年間あったとのこと。現在の女子プロの現況を見ると、最近女子ゴルフ界で活躍している中で、沖縄・熊本の選手が多く出現しているが、これは若い人を対象に能力を伸ばそうと努力している指導者の力が大きいと話していた。また、韓国の女子選手の活躍が目につくが、これは家族ぐるみで応援し、国としても可成の援助があるとも話していた。最後に、どのようなスポーツでも年少の頃からやるべきだ、そして継続して欲しいと結んでいた。】

* 幸田 弘子 (こうだひろこ、朗読家) のことば

”「たけくらべ」、「にぎりえ」、「十三夜」等の一葉作品を通じて、時代背景・風俗等を伝誦したいと語っていた。【2012. 11. 13. “ラジオ明日へのことば” の中で】(樋口一葉 1872～1896)

【一葉を語り続けて35年になるが、24歳で生涯を終えた作家の数々の作品を後世に語り伝えるのが自分の使命と考え続けて行きたいと話していた。また、初めて師事した山本安英さんが90歳まで元気だったので、それまで頑張っていきたいとも語っていた。

本人も今年中に傘寿(80歳)になると言っていた。】